

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

豊かに学び 認め合い 咲かせよう笑顔と満足の花

- 基礎・基本を身に付け、自ら問題を発見し、よりよく解決する力を育てます(知)
- 自他を大切に、豊かな体験を通して他者とともによりよく生きる力を育てます(徳)
- 自ら健康を保持・増進し、心身ともにたくましく生きる力を育てます(体)
- 自分の役割や働くことの意義を理解し、地域や社会のために他者と協働する力を育てます(公)
- 自分を見つめ、多様性を尊重し、共生する力を育てます(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

自分づくりに関する力
問題発見・解決能力
自分の考えを伝える力

具体化した資質・能力

- ・夢や希望をもち、なりたい自分や生き方を追求する姿勢
- ・問題を発見し、様々な情報を活用・選択しながら解決する力
- ・思いや考えを表現する力
- ・メタ認知と自己を理解する姿勢

中期取組目標

○子ども達の夢や希望を育みながら、まちと共に歩む学校づくりを推進します

- ・子どもたちが様々な学習や体験を通して多くの人やものと出会い、豊かに学べる学校づくりを目指します。
- ・人との関わりやつながりを大切に相手意識、目的意識を育て、子どもたちがお互いの良さを認め合い協力する喜びを実感し、共に成長していこうとする豊かな心を育んでいきます。
- ・学校・家庭・地域の中で自己有用感や多くの達成感を感じ、夢や希望をもち、なりたい自分に向かって努力し続ける意欲を高めていきます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学力向上	①国語科を中心として、伝える目的、内容、方法を学び取れる授業デザインを職員全体で共有し、教科横断的に連続して指導することで、知識を活用する力をつける。②なりたいたい姿に近づけるように、学習に取り組む過程を大切に指導し、主体的に取り組む態度の育成を図る。③意思決定したことについて、その進捗状況や達成度をふり返り、自己の成長を実感できるようにする。
担当	学力向上推進委員会

学力向上に関わる本校の状況	今年度の目標	目標を実現するための具体的行動プラン
<p>R4年度末アンケートより一部抜粋</p> <p>①「授業の内容はわかりますか」では、どの学年も「よくわかる」「わかる」という答えが9割程度となった。</p> <p>②「授業では、自分の考えをもつことができますか」では、「だいたいもつことができる」を含めると低学年では約9割の児童が思いや考えをもっているという結果になった。3年生から6年生では7割から9割と幅のある結果が見られた。</p> <p>③「授業では、自分の思ったことや考えたことを伝えることができますか」に対して、「どの時間でも伝えることができる」「だいたい伝えることができる」という答えが1年生では約8割で、2から6年生では5割～6割程度という結果になった。また、人数にばらつきはあるものの、どの学年にも「授業中に自分の考えを伝えることができない」という回答があった。</p> <p>本校の状況として、「自分の考えを伝えられる子」の育成には、「安心して過ごすことのできる学級の雰囲気づくりが、いかに重要なかわかる。子ども達が思いや考えを伝えることができるようにするためには、「伝える内容」「伝える方法」「伝える目的」を明確にするとともに、子ども達自身が解決したいと思うような課題の設定や教師の関わり方の工夫が大切だと考える。また、「考えがもてた」「伝えることができた」とする捉えが一人ひとり異なることが読み取れる。子ども達自身が自己の成長について捉えられるようにするためにも、基準となる姿を提示することが必要だと考える。</p>	<p>①国語科を中心として、思いや考えを表現する力を意識した実践を継続する。</p> <p>②意思決定したことに向けて、進捗状況を確認したり、達成度を振り返ったりしながら、自己を育成する姿勢を育てる。</p>	<p>上半期</p> <p>【思いを表現する力「伝える」を意識した国語科を中心とした指導】</p> <p>問題発見や解決策を試行錯誤する場面で、自分の思いや考えを他者に伝える機会を重ねる。国語科で得た知識を、対話の中で、繰り返し活用することで獲得できるようにしていく。目的や場面、相手に合わせて身に付けた力をいかす機会を設定することで思いや考えを表現する力を育むようにする。</p> <p>【校内漢字テストを活用した学び方の指導】</p> <p>意思決定したことに向けて、自分に合った学び方を身に付けられるように指導する。努力過程を振り返る機会を設定するためのプロセスシートを活用し、学びの過程を大切に指導をする。</p> <p>【自分づくりパスポート】</p> <p>なりたいたい姿の設定の仕方や努力の過程に気づき、自己の成長を振り返られるような活用方法を整えるようにする。学習シートの改善や活用方法の分析を図ることで、子どもたちが決めたことを実践し、自己の成長を振り返られるようにする。</p> <p>下半期</p> <p>【学習状況調査の結果分析】</p> <p>学習状況や生活実態意識調査の分析をもとに、具体的行動プランとの差異を検討する。学習状況の結果だけでなく、一人ひとりの伸びについて要因や原因について捉えるようにする。</p> <p>【子どもの伸びを見つめる評価】</p> <p>年度途中に数回、子どもたちの伸びを見つめる時間を設定する。年度初めに作成した「児童カルテ」に加筆していく。保護者面談のカウンセリングも加味しつつ、児童理解の側面から学習面や行動面における伸びを記録する。</p> <p>【読書活動の推進】</p> <p>読書活動の推進に取り組み。図書館年間指導計画を活用する。司書教諭との連携指導をはじめ、各教科学習にて目的に合わせた図書館活用を行う。また、国語科を中心として学習に関連する書籍を選書することで、本に親しむ機会を増やす。</p>

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育 特別支援教育	①研修を通して教職員の特別支援教育の理解を深める。②すべての児童が安心して学習できるように、学校としてのユニバーサルデザインの取組方を検討し実施する。③個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、校内委員会で個に合った支援を検討し実施する。
担当	人権・特別支援教育委員会

豊かな心に関わる本校の状況	今年度の目標	目標を実現するための具体的行動プラン
<p>(児童指導)</p> <p>・友だちに対して自分との考えの違いを受け入れられなかったり、相手の気持ちを考えずに傷つける言動をしてしまう場面がみられる。</p> <p>・上下関係を築き、自分を優位に立たせることで自己満足感を得ようとしている。</p> <p>(特別支援)</p> <p>・一般学級の中に個の支援を必要とする児童が多い。</p> <p>(YP)</p> <p>・自分に自信がない。</p> <p>・自己を理解する力が乏しい。</p> <p>・「自分のことを好きです」→学級によっては「全然そう思わない」が多い。</p> <p>・友だち関係が希薄。</p> <p>・自分の意見を伝えることが苦手。</p> <p>○安心して学習したり生活したりできる環境作りが必要。</p> <p>○自分も友だちも大切にできる、認め合いの人間関係作りが必要。</p> <p>○個への支援が必要。</p>	<p>①特別支援教育に関する研修を行う。「知り合おう」「関わりあおう」「認め合おう」を意識した学級経営を行う。②学校としてのUDの取組を年間を通して行う。他のクラスの授業を見学し、有効な支援を学ぶ。③個別の教育支援計画・個別の指導計画を活用した個への支援を行う。困り感のある児童について支援案を出し合う。</p>	<p>上半期</p> <p>①【日常的な人権意識】</p> <p>ゴールは「認め合い」ができる学校。「知り合おう」「関わりあおう」「認め合おう」を意識した学級経営を行い、日常的に子どもたちの人権意識を高める。</p> <p>・4月～7月「知り合おう」をテーマに、友だちのことをよく知るための活動を意識する。また、担任と子どもたちとの関係づくりを大切にしている。</p> <p>・YP研修を行い、学年・学級の人間関係を把握する。</p> <p>②【ユニバーサルデザイン】</p> <p>学校として以下のユニバーサルデザインに継続して取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元計画を提示する。1時間の授業の流れを提示する。(教科、時間に応じて取り入れる。) ・安心感を与え、予想を立てやすくする。全体の中での位置にいるか理解できる。 ・ホワイトボードを活用し、1日の予定や提出物を提示する。 ・生活の見通しをもてる。 ・教室前面をすっきりさせ、刺激量の調整をする。 ・落ちついて学習できる。授業内容に集中できる。 ・毎時間あてを書き、読む。 ・1時間で何を学べばよいか分かる。 <p>また、個別支援学級の授業や教室環境から、誰にとっても有効な支援について学ぶ。</p> <p>③【個への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任とサポートルーム担当で情報共有を密にし、個にあった支援を行う。個別の教育支援計画の教育的ニーズにあった支援を行う。 ・研修を行い、個別の教育支援計画・個別の指導計画を有効活用できるようにする。 <p>下半期</p> <p>①【日常的な人権】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月～12月「関わりあおう」をテーマに、目標に向かって協働的に活動する姿を意識する。友だちと関わりあう中で、よさを見つけ、それを伝え合えるような時間を作っていく。 ・1月～3月「認め合おう」をテーマに、自分や友だちのよさを認め合ったり、考えの違いを、認め合う時間を作っていく。 ・12月の人権週間では、「認め合い」をテーマに、日々の認め合いを意識した学級経営の延長で活動を設定する。 <p>・YP研修を行い、各学級に合った温かい学級風土作りについて学ぶ。</p> <p>②【ユニバーサルデザイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラスで行っている有効な支援を共有する。 ・研修や他クラスから学んだ支援を生かした学習環境づくりを行う。 <p>③【個への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任、サポートルーム担当、保護者との面談等を通して、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しを行う。 ・困り感のある子どもへの支援を検討し、職員で共有する。児童理解全体会等で支援検討会を行う。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
安全教育 健康教育	①多様な想定で繰り返し避難訓練を行い、発災時にどのように命を守ることができるか考え、行動できるようにする。②委員会活動や学校保健委員会の取組を通して、自己健康管理能力の向上を図る。③体育行事(運動会・体力テスト・水泳学習)や運動委員会の取組を通して体力向上を図る。
担当	健康・安全教育委員会

健やかな体に関わる本校の状況	今年度の目標	目標を実現するための具体的行動プラン
<p>約3年間のコロナ禍で、子ども達の低下を感じている。体力テストの結果を見ても、平均の数値を下回ること結果が多い。運動する子としない子の二極化が進んでおり、体力向上の取組を推進することが大切であると考える。休み時間に外で遊ぶように声をかけたり、運動委員会の取組を通して体力向上を図ってきたい。本校では、水泳学習を従来通りに3年間行ってこなかった。今年度は子どもの安全に配慮しながら、各学年の水泳学習の目標に向かってスモールステップで取り組んでいく。</p>	<p>①基本的な訓練から発展した避難訓練へ(予告なし訓練等の実施→職員の誘導訓練)</p> <p>②目の健康を意識した生活の定着</p> <p>③体力向上のための生活習慣(食事、運動)の定着</p>	<p>上半期</p> <p>【安全教育】</p> <p>火災・地震等月1回程度の避難訓練を行い、訓練後のふりかえりアンケート内容を部会で検討し、訓練をより実際に合わせたものに改善して行うようにする。繰り返し訓練をすることで、児童一人ひとりの自己回避能力を高めていく。火災では、防火シャッターを使用し、火災時の状況を体験することができるようにする。集団登校時に地区別に校庭に集合し、集団下校時の集合場所の確認をしたり、登下校の安全を確認したりする。</p> <p>【健康教育】</p> <p>①感染症流行時期からの定期健康診断の結果から本校の目の健康に関する現状と課題を把握し、取り組みの内容を検討する。保健委員会が中心となり、決定した取り組みを推進する。</p> <p>②体力向上のために、栄養バランスの取れた食事と、日々の運動に子どもの気持ちを向けていく。食事面では、給食スタンダードに基づいて、安心・安全な給食指導を行う。改善の必要がある場合は、月1回のカリマネ部会で検討し、打合せなどで共通理解を図る。また、運動面では、児童会・運動委員会の活動を通して平素から体を動かすことの大切さを子どもに意識づけていく。</p> <p>下半期</p> <p>【安全教育】</p> <p>様々な想定で行う月1回程度の避難訓練(地震・火災・不審者・第二次避難・清掃中・中休み中)を行い、訓練後の振り返りから次回の訓練をより実際に合わせたものに改善して行うようにする。繰り返し、訓練をすることで、児童一人ひとりの身を守る力を高めていく。清掃中の訓練では近隣の教室に避難したり、声を掛け合って避難するなど、職員が不在の場合でも臨機応変に避難ができるような内容の設定をする。上半期より具体的な行動をとる機会を増やす。</p> <p>【健康教育】</p> <p>①取組の中間振り返りを行い、内容を改善していく。第2回学校保健委員会では、取組のまとめを行い、次年度へつなげる。</p> <p>②食事に関して、生活科で育てた野菜を家庭で食べることや家庭科の調理実習、給食委員会による「給食週間」の取組の中で、食事における栄養バランスに対する意識を高めていく。運動に関しては、運動委員会の活動である「マラソン週間」に全校で取り組み、平素からの体力向上を図っていく。</p>